

健診項目		解説(検査でわかること等)	
計測	身長・体重	体重が昨年と比較して変化があるか確認しましょう。急な増減は要注意です。	
	BMI	肥満(もしくはやせ)かどうかをチェックする「体格指数」標準は22です。 ※BMI=体重()kg ÷ 身長()m ÷ 身長()m	
	腹囲	内臓脂肪の蓄積の程度がわかります。	
循環器	最高血圧(収縮期)	血圧は心臓が収縮または拡張したときに血管壁にあたる血流の強さを示しています。	
	最低血圧(拡張期)	循環器(心臓・血管)の異常のほか、腎臓・内分泌・代謝系の異常を知る手がかりになります。	
	心電図	不整脈、狭心症、心筋梗塞、心筋症や心臓肥大などの有無がわかります。	
	BNP	心臓に負担がかかった際に分泌されるホルモンです。心不全の診断、重症度評価に有用です。	
貧血・白血球	赤血球数	体の組織細胞に酸素を運び炭酸ガスを持ち去るガス交換作用の役目をしています。	貧血で低下し、多血症で上昇します。貧血の診断に欠かせない検査です。
	血色素量(Hb)	赤血球の中で酸素の運搬を担っています。貧血の有無がわかります。	
	ヘマトクリット値	血液中に占める赤血球の割合を表したものです。	
	血小板数	血小板は止血に関わる重要な成分です。出血性素因のある病気の診断に有効です。	
	白血球数	細菌による感染症や炎症がある場合に高値となります。また、喫煙で高値になることもあります。	
脂質	総コレステロール	コレステロールはホルモンや細胞膜の材料になります。多すぎると動脈硬化や脳卒中、心筋梗塞のリスクが高まります。	
	空腹時中性脂肪	中性脂肪は糖分(主食・アルコール・甘い物)の取り過ぎや運動不足で増え、脂肪肝や動脈硬化の原因になります。	
	随時中性脂肪	※空腹時中性脂肪は絶食10時間以上、随時中性脂肪は絶食10時間未満に採血されたものになります。	
	HDLコレステロール	血管にたまった悪玉のLDLコレステロールを肝臓に持ち帰る働きがあるので善玉コレステロールといわれます。	
	LDLコレステロール	血管の壁に蓄積し、高値のまま放置すると動脈硬化が進み脳梗塞や心臓病の原因になるので悪玉コレステロールといわれます。	
	non-HDLコレステロール		
肝機能	AST(GOT)	肝細胞に多く含まれる酵素で、肝臓に障害が起こると血液中に流れ出し、数値が高くなります。	
	ALT(GPT)	特に「γ-GTP」はアルコール性肝障害で数値が高くなります。	
	γ-GTP	なお、AST(GOT)は心筋にも多く含まれ、心筋梗塞を知る手がかりになります。	
	ALP	肝臓をはじめ多くの組織に存在します。貧血・炎症・腫瘍、胆道系の病変や骨の病気で上昇します。	
	LD(LDH)	肝臓をはじめ多くの組織に存在します。貧血・炎症・腫瘍の所見があると上昇します。	
	CHE(コリンエステラーゼ)	肝機能の低下で低下し、栄養過多や脂肪肝で上昇します。	
	総ビリルビン	血液中にあるヘモグロビンの代謝産物です。肝臓・胆道の病気、特に胆汁の流れが悪くなると上昇します。	
	総蛋白	アルブミンやグロブリンなど100種類以上のタンパク質の合計量です。健康状態、栄養状態、肝機能、腎機能を反映します。	
	アルブミン	肝臓で合成されるタンパク質で、栄養状態・肝機能を反映します。	
	A/G比	蛋白質であるアルブミン(A)とグロブリン(G)の比率です。血液中の栄養状態や肝機能、腎機能を示す指標です。	
	HBs抗原、抗体	HBs抗原陽性であればB型肝炎ウイルスに感染している可能性のあることを意味します。抗体は免疫の有無を調べる検査です。	
HCV検査	C型肝炎ウイルス感染の有無を調べる検査です。		
糖尿病	空腹時血糖	いずれも糖尿病の有無を調べる検査であり、尿糖は尿中に糖が出ていないかを調べ、血糖は血液中のブドウ糖の量を調べる検査です。血糖値は、肥満、運動不足、ストレス、胃切除などで異常に出ることがあります。HbA1cは過去2ヶ月間の平均的な血糖値を推定できる検査であり、食事の有無に影響されません。	
	随時血糖		
	HbA1c(NGSP値)		
	尿糖		
痛風	尿酸	腎臓から排泄される核酸(DNA)の最終代謝産物です。肉類、アルコール、カロリーの摂りすぎで上昇すると痛風の原因になります。	
腎機能	尿蛋白	(+)以上は慢性腎臓病(CKD)、ネフローゼ症候群、尿路感染症などの腎機能障害が考えられます。運動や発熱でも一時的な蛋白尿になることがあります。	
	尿潜血	(+)以上は腎臓、尿管、膀胱などの出血が考えられます。	
	尿ウロビリノーゲン	健常人でもわずかに検出されますが、肝機能障害や溶血性貧血などが進むと排泄量が多くなります。	
	尿沈渣	尿中の有形成分(赤血球、白血球、円柱等)を顕微鏡で調べます。どこかに出血があれば赤血球、感染があれば白血球がみられます。	
	尿素窒素	蛋白質が代謝されてできる老廃物(尿素)中の窒素成分です。腎機能障害で上昇します。	
	血清クレアチニン	通常は尿へ排泄されますが、腎機能が低下すると血液中に蓄積し高値を示します。	
	eGFR(推算糸球体濾過量)	腎機能の程度を推測する指標です。腎臓がどれくらい老廃物を尿に排泄する能力があるかを示しています。	
呼吸器	胸部X線	結核、肺の炎症性疾患、腫瘍などを発見します。	
	喀痰細胞診	痰を採取して、顕微鏡で痰の中の細胞を観察し、がん細胞が含まれているかどうかを調べます。	
	肺機能検査	肺の大きさや気管支の狭さを数値で「見える化」できる検査です。喘息やCOPD、間質性肺炎などの状態がわかります。	
消化器	胃部X線・内視鏡	食道・胃・十二指腸までの消化管を、造影剤によりX線撮影します。または、内視鏡で直接粘膜を観察します。	
	腹部超音波	超音波を利用して肝臓、腎臓、胆嚢、膵臓、脾臓、腹部大動脈の病気を画像診断します。	
	便潜血	便に含まれる血液を検出するもので、主にポリープや大腸がんの早期発見に役立ちます。	
	アミラーゼ	膵臓、唾液腺より分泌される消化酵素で、膵臓の疾患、唾液腺の疾患(耳下腺炎など)で高値を示します。	
眼底・眼圧	眼底	網膜の血管を観察することで動脈硬化や高血圧による変化をみます。また、糖尿病による血管障害の有無を調べることができます。	
	眼圧	眼球内の圧力(眼圧)を測定する検査です。眼圧が高いと緑内障や高眼圧症、低いと網膜剥離などの病気が疑われます。	
炎症等	CRP	急性の炎症性疾患で高値になります。	
	RA	リウマチ性の疾患で高値になります。リウマチでなくとも高値になることがあります。	
骨	骨密度検査	X線を使用し骨量を測ります。結果は若い人の平均値を100%とした時に自分の骨の量が何%かで示されます。	